名古屋市会議員 松井よしのり

2024 春号47

通算39回目の本会議個人質問

令和６年２月定例会

２月定例会が令和６年２月２０日（火曜日）から３月２１日（木曜日）までの３１日間にわたり開催されました。松井よしのり議員は今定例会において、当選以来３９回目となる個人質問を行いました。

今回の質問は
① 外国人の消防団入団について
② 幻のベンツ製はしご車の修復状況と活用の方向性について

1 外国人の消防団入団について

質問Q 松井よしのり議員

外国籍の方の消防団への入団について、しっかり検討していくべきでは？

現在名古屋市では、国が「公権力の行使」ができないという見解を示していることから、外国籍の方の消防団入団は認められていない。しかし全国２０の政令指定都市のうち、６つの都市では、すでに外国籍の方の入団を認めており、どの都市も公権力の行使とならない火災予防の広報や地域における訓練指導など、平常時の活動を中心に活躍されている。日本で働く外国人労働者の数は今後もさらに増えていくことが予測される中、「消防団員として自分たちの街を守りたい」と考える外国籍の方も増えてくると考えられる。時代の流れや社会の変化をとらえ、消防団の皆様の声をしっかりと聞きながら、外国籍の方の消防団への入団について検討していくべきではないか。

外国人の消防団員に関する他都市の状況

※令和6年2月1日現在

横浜市	55人	浜松市	0人
川崎市	7人	岡山市	1人
相模原市	4人	熊本市	5人

外国人消防団員の活動範囲の主な例

従事できるとされる活動	▸災害時の避難誘導 ▸避難所での通訳 ▸平時における広報活動 ▸地域住民への応急手当ての指導
公権力行使を伴うため従事できない活動	▸火災現場からの退去などを命じる消防警戒区域の設定 ▸家屋の破壊など消火活動中の緊急措置

答弁A 消防局長

消防団連合会と調整を図りながら、速やかに検討していく！

議員ご指摘のとおり、他都市では外国人の入団を認めている事例があり、公権力の行使を伴わない部分でご活躍いただいていると聞いている。また現在、国において外国人消防団員が従事できる活動の事例を整理して、令和６年度中に通知すると伺っている。国の動向や他都市の事例を踏まえつつ、消防団連合会との調整を図りながら、速やかに検討していきたい。

2 世界最古！幻のベンツ製はしご車の修復状況と活用の方向性について

質問Q 松井よしのり議員

ベンツ製はしご車の修復状況と修復後の活用の方向性は？

平成２８年９月定例会の本会議で、昭和１０～４３年まで本市で活躍したベンツ製はしご車を蘇らせて有効活用すべきと提案し、復活に向けた修復作業が進められることになった。その後、何度か修復作業を拝見したが、「度重なる修理において、中身は製造当時とは大きく変わっていることから作業は難航していたが、現在は修復も終盤に差し掛かっている」との話も聞く。現在の修復状況はどうなっているのか。また、修復後の活用の方向性についての考えは。

7年前

平成２８年９月定例会の本会議個人質問にて、松井議員が幻のベンツ製はしご車の有効活用について提案し修復、走行可能を目指し動き出しました。

当時メディアで大きく報じられました！

クラシックはしご車 復活へ
防火イベントなどで活用
平成28年9月16日　朝日新聞　朝刊

平成28年9月15日　CBCテレビ「イッポウ」

答弁A 消防局長

修復後は防火・防災思想の普及啓発の一助となる活用方法を検討していく

現在ベンツ製はしご車は丁寧かつ忠実に修復を進めており、外装や内装、エンジンの修復については完了の見込みが立っている。エンジンの力を車輪に伝える「駆動部分」については、製造元であるベンツ社のほか、国内の自動車メーカーに問い合わせても構造が分からず修復に時間を要しているものの、全体の修復作業は最終局面を迎えている。

修復された暁には、消防の伝統行事である消防出初式において、現役引退後約60年ぶりに動く姿を市民の皆様に披露させていただき、その後は展示といった静態保存を前提とし、防火・防災思想の普及啓発の一助となる活用方法を検討していきたい。

令和5年11月定例会

本会議個人質問

救急安心センター事業 ＃７１１９ の導入について

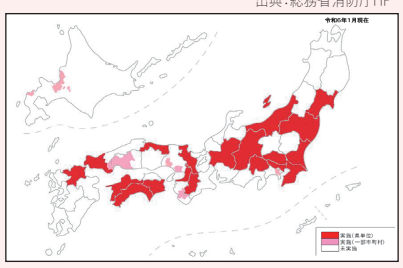
Q 質問　松井よしのり議員

コロナ渦における感染拡大時期には、多くの救急患者が発生し、受入先医療機関が決まらない救急搬送困難事案が頻発した。また、高齢化の進展に伴い、医療需要のさらなる増加が見込まれており、地域の救急搬送・救急医療の担い手不足という切実な問題もある。市民に安心・安全を提供するとともに、救急搬送の迅速化や医療機関の負担軽減を図るため、看護師などの医療の専門家による相談窓口として、本市域でも救急安心センター事業**＃７１１９**を導入すべきではないか。

救急安心センター事業　＃７１１９ とは？

急なケガや病気で救急車を呼んだ方がいいか、今すぐ病院に行った方がいいかなどの判断に迷った時に専門家からアドバイスを受けることができる電話相談窓口のことです。電話口で医師や看護師、相談員がお話を伺い、ケガや病気の症状を把握して「緊急性があるか」「受診の必要があるか」などを判断し、アドバイスをします。令和6年1月時点において、全国１９の都道府県及び５つの地域で実施されています。

出典：総務省消防庁HP



健康福祉局長 **消防局長** から

「 #7119の早期実現に向けて検討する！ 」

と、前向きな答弁

A 答弁　健康福祉局長

＃７１１９は、何よりも市民の安心・安全に資するものであり、結果として救急医療機関への適正受診、迅速な救急搬送にも繋がることが期待される。愛知県をはじめ関係機関との調整を含め、早期実現に向けて検討していきたい。

A 答弁　消防局長

＃７１１９を導入し、医療機関の受診の適正化が図られれば、その効果として搬送先医療機関の決定に要する時間の短縮が見込まれ、救急搬送困難事案の減少、ひいては迅速な救急搬送が期待できる。今後、医療提携体制の構築を所管している健康福祉局と連携・協力を図りながら検討していきたい。

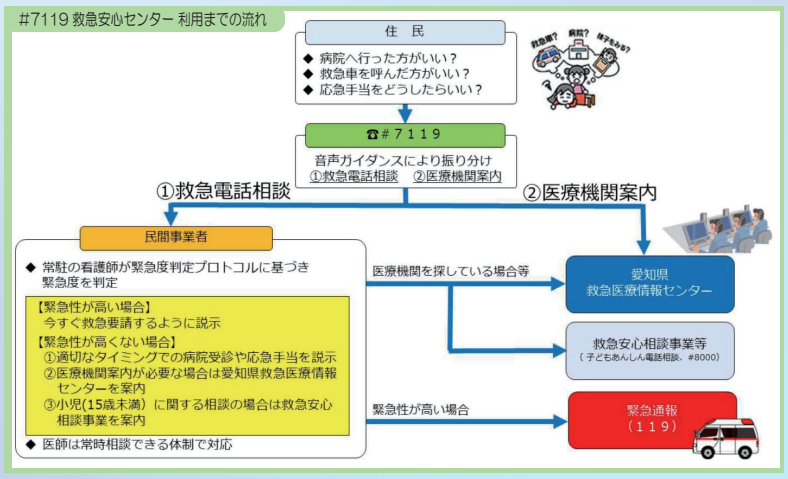
令和6年2月定例会
財政福祉委員会にて

令和6年7月頃の

本事業開始を目指す!!

松井議員は財政福祉委員会においても、本事業の早期実現を強く求めました。健康福祉局からは、すでに多くの都道府県や地域で導入が進んでおり、本市も早期に開始したいと考えていることから、令和６年７月頃の事業開始を目指して準備を進めたいと答弁がありました。

出典：総務省消防庁HP



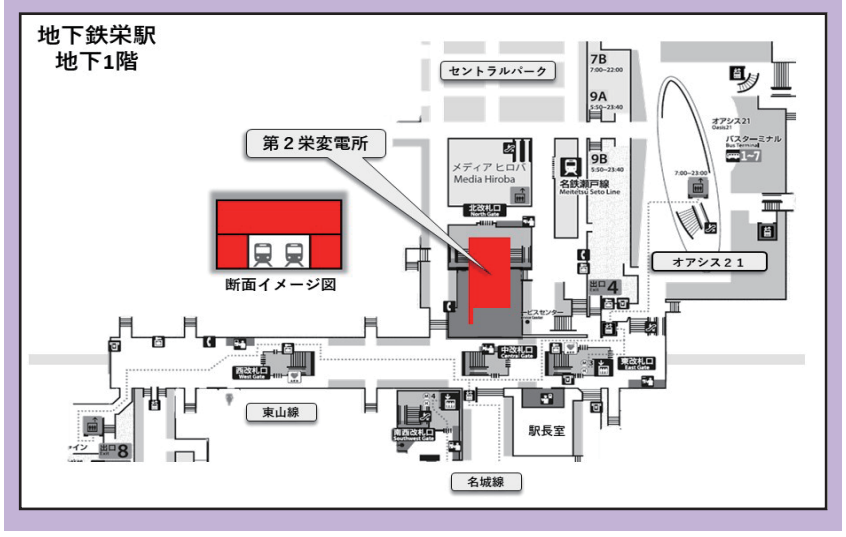
地下鉄栄駅にある変電所 移転後の空間の活用について

▲「第二栄変電所」内を視察する松井議員

Q 質問　松井よしのり議員

地下鉄栄駅構内に位置する正式名称「第二栄変電所」は、変電設備の老朽化に伴い、旧名城工場跡地に移転する計画が進んでいる。これにより、名古屋の都心の一等地の栄駅に新たにかなりの大きさの地下空間が生まれることになる。実際に現場視察を行った際、予想以上に天井も高く、機器を撤去したらかなり広々とした空間になるだろうと印象を持った。この空間を利用し、駅全体としての魅力アップにつながるような活用をしてほしいが、新たに生じる空間はどのくらいの面積になり、その空間を今後どのように活用していくのか。

「第二栄変電所」位置図



A 答弁　交通局長

名古屋の都心にふさわしい栄駅を目指し
貴重な空間を有益に活用できるよう検討を進める！

新たに約１，２００平方メートル（テニスのシングルコート約６面分相当）の広さの地下空間が生まれる予定。現在の第二栄変電所は、駅コンコースへつながる通路が狭いことや、高低差があるなどの課題がある一方、栄駅周辺では乗降人員の増加に加え、お客様の動線が変わることも想定される。栄駅が名古屋の都心にふさわしい駅となるよう、新たな空間を利用した駅施設の再配置や有効活用を検討し、あわせて混雑緩和を図ることで、この貴重な空間をより有益に活用できるよう検討を進めていく。

自由市民　松井よしのり　2024春号47

自由民主党名古屋市会議員団
名古屋市中区三の丸３丁目１番１号
（名古屋市役所内）
電話：(大代) ９６１－１１１１
名古屋市会議員団ホームページ
https://jimin-nagoya.com

松井よしのり
昭和39年10月20日生まれ
家族：妻、長男夫婦、長女
特技：柔道（三段）
座右の銘：一念天に通ず
好きな色：ドラゴンズブルー

松井よしのり 事務所
〒463-0076
名古屋市守山区鳥羽見２－１０－８
TEL　052(758)5505
FAX　052(758)5507
E-mail　matui.55@nifty.com